

5万分の1地質図「中野」刊行される

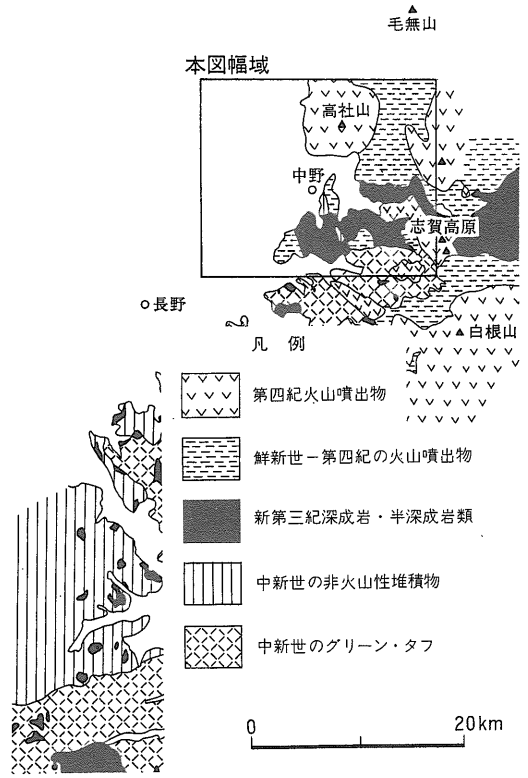
5万分の1地質図および地域地質研究報告「中野」が出版されました。著者は赤羽貞幸・加藤碩一・富樫茂子・金原啓司の4名です。

中野図幅地域は、長野県北部の長野盆地の北端部にあたり、千曲川が地域の西よりを南から北へ流れています。図幅地域の中央部に中野市があり、南に小布施町・須坂市・長野市・高山村、北に飯山市・木島平村、西に三水村、東には山ノ内町と雪質の良いスキー場があることで有名な志賀高原があります。

中野図幅地域は、大きな地質構造単位では北部フォッサマグナ地域に位置し、主に新第三紀中新世から第四紀更新世にかけての地層や火山岩類が分布しています。この地域は、地質構造の違いから東部山地・西部山地・盆地地域の三つに分けることができます。

東部山地は、長野・群馬の県境をなす三国山脈の南端部にあたり、標高は最高2000mを超える所があります。主として中新世から更新世にかけての火砕岩類や深成岩類からなる地域です。中新統の志賀緑色火山岩類は、いわゆるグリーンタフで、緑色変質した火砕岩類・溶岩などから構成されており、この地域で最も古い地層です。その上位には黒色頁岩層の高井頁岩層が覆っており、これらを一貫して貫く深成岩の一種の閃緑斑岩が広く分布しています。また、多くの火山岩類と堰止湖に堆積した湖成堆積物が発達しています。

西部山地は、標高900m以下の丘陵地で、主に鮮新世から完新世にかけての堆積岩類からなり、断層や褶曲の発達した複雑な地質構造をしている地域です。最下部の長沢層は泥岩・砂岩からなる海成層



第1図 中野図幅とその周辺地域における火成岩類の分布の概要

ですが、その上位の大川層・水内層と、しだいに汽水成・淡水成の地層から陸成層へと変化していきます。はじめ海だったところがしだいに陸化して行ったわけです。堆積物の中には火山起源のものも多くあります。更新世前期には、安山岩質の溶岩や火砕岩類からなる斑尾火山も活動しました。

中央の盆地地域には扇状地堆積物などの第四紀の堆積物が分布しています。これらは長野盆地に流れ込んだ河川による扇状地堆積物や湖成堆積物からなり、厚さ500m以上に達すると推定される更新世中期以降の地層です。扇状地堆積物には新旧二つのものが識別され、新期のものほど下流側に分布しています。沓瀬原堆積物は自然堤防堆積物と後背地堆積物とからなり、千曲川沿いに広く分布しております。

この地域には、湯田中・熊ノ湯などの温泉が多数あり、食塩泉が多いようです。摂氏96度以上の高温のものもあります。

◇昨年11月号で地質調査所月報5号までの内容を紹介したので、それ以後の目次を以下に示します。

地質調査所月報

第42巻 第6/7号

特集放射性廃棄物の深層隔離(その2)

奥山(楠瀬)康子:北海道,石狩炭田北部地域での碎屑岩における自生鉱物形成作用:天然での処分関連鉱物の生成機構 289

高橋 学・薛 自求・小出 仁:稲田花崗岩・白浜砂岩・来待砂岩・新第三紀泥質岩の透水特性について 305

月村勝宏・松久幸敬・金井 豊・平井寿子:水熱条件下でのホウケイ酸ガラス固化体組成の安定相鉱物 333

関 陽児:気液二相流入坑井における貯留層内沸騰以前の地熱流体の化学組成の推定法 337
金原啓司:日本の地熱地帯のパイロフィライト ... 347

第42巻 第8号

浦井 稔・佐藤 功:九州北部におけるレーダー画像のテクスチャと岩相 377

寺島 滋・井内美郎・斎藤文紀・宮田雄一郎・片山 肇・寺島美南子:湖沼浚渫域の底質における元素の鉛直分布と化学的性質 387

富樫茂子・赤羽貞幸:長野県高社火山の性質—安山岩質小火山の形成と侵食— 409

第42巻 第9号

竹内 誠・滝沢文教:飛騨山地薬師岳地域の手取層群の堆積環境と背後地解析 439

加藤 完・高橋 誠:土壌ガスによる伊豆大島元町地区の熱水上昇域探査 473

第42巻 第10号

村尾 智・松本哲一:尾平鉱床区祖母山火山岩類のK-Ar年代 497

山田宮三・坂口圭一:断裂面上の条線から主応力軸の方向およびR値を計算する方法の改良 503

西澤 修・吉野 隆:楕円体クラックを含む異方性岩石での実効弾性定数の一般的数値計算法

.....517
矢島淳吉・羽坂俊一・太田英順・渡辺 寧・中川 充・成田英吉:北海道における金属・非金属資源産出量とその特徴—特に新第三紀—第四紀鉱化作用について— 527

第42巻 第11号

岡 重文:関東地方南西部における中・上部更新統の地質 553

第42巻 第12号

特集 伊豆-小笠原弧の海底地質(その1)

Toshitsugu YAMAZAKI, Takemi ISHIHARA and Fumitoshi MURAKAMI: Magnetic anomalies over the Izu-Ogasawara (Bonin) Arc, Mariana Arc and Mariana Trough 655

Takemi ISHIHARA and Toshitsugu YAMAZAKI: Gravity anomalies over the Izu-Ogasawara (Bonin) and northern Marianan Arcs 687

Makoto YUASA, Fumitoshi MURAKAMI, Eiji SAITO and Kazuaki WATANABE: Submarine topography of seamounts on the volcanic front of the Izu-Ogasawara (Bonin) Arc 703

第43巻 第1/2号

特集 日本の新生代地史とテクトニクス

Hirokazu KATO: FOSSA MAGNA—A masked border region separating southwest and north-east Japan 1

Tom WILSON and Hirokazu KATO: Interpretation of the Matsumoto Basin gravity low 31

吉田史郎:瀬戸内区の発達史—第一・第二瀬戸内海形成期を中心に— 43

尾崎正紀:日本における古第三紀植物群の変遷と古気候変化 69

吉岡敏和:近畿地方北部のネオテクトニクス 87

杉山雄一:西南日本前弧域の新生代テクトニクス—静岡地域のデータを中心に— 91

山本博文:山陰北陸沖日本海の鮮新統—第四系堆積盆 113

佐藤比呂志:東北日本中部地域の後期新生代テクトニクス 119